



2021年11月25日

日本鉄道労働組合連合会

東北地方協議会 第30回定期委員会

組織の総力をあげて苦境を乗り越え、明るい未来を自らの手で掴み取る！



J R 連合東北地方協議会は 11 月 13 日、仙台市において、新型コロナウイルス感染症への対策を施したうえで、第 30 回定期委員会を開催した。

冒頭、挨拶に立った添田寿男議長（J R E ユニオン中央執行副委員長）は、「最近では走行中の列車内において、お客様の安全をおびやかす事象が断続的に起きるなど、これまでとはやや異なる観点で安全問題が生じている。こうした事象への対処は、会社だけでは

難しいのが実情であり、政治の力を頼ることも必要。こういう時こそ働く仲間を守るために、労働組合が力を発揮すべきところではないか」と呼び掛け、労働組合の取り組みの重要性を述べた。

来賓として、J R 連合の宮野勇馬企画部長と相良夏樹組織部長、J R E ユニオンの菅野一位中央執行委員長（J R 連合副会長）が参加し、それぞれ挨拶を行った。まず、J R 連合から宮野企画部長が、11 月 6 日に開催された宮城県名取市におけるボランティア活動への参画に謝意を示しつつ組織活動の重要性を述べ、加えて最近の不安全事象や政策活動の取り組みについても説明を行った。次に相良組織部長から、第 49 回衆議院議員選挙の取り組みに対する謝意を述べるとともに、次期参議院議員選挙の取り組みや J R 連合以外の産別や労組の動向について説明を行った。続いて菅野中央執行委員長は、J R 東日本の経営を取り巻く情勢に触れつつ、11 月 11 日に回答があった年末手当交渉の経過を説明した。さらに組織拡大については、「しっかりと繋がりを構築して取り組み進めていく」と力強くその決意を述べた。

質疑では、「衆議院議員選挙を踏まえた今後の選挙支援のあり方」「来年のダイヤ改正」「J R 東日本の駅営業体制のあり方」「J R 貨物の今後の展望」など複数の意見が出され、貴重な機会ということもあり、来賓も活発な議論に加わった。

各議案は、桝窪吉則事務局長（J R E ユニオン仙台地本）の答弁を経て満場一致で承認された。また、役員を選出では新たに齋藤勝彦議長（J R E ユニオン仙台地本）、清水孝雄副議長（J R E ユニオン仙台地本）、秋本鉦常任委員（貨物鉄産労東北地区本部）が選出され、添田議長と平野康夫常任委員（貨物鉄産労東北地区本部）が退任となった。